

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	62199	地域活性化イベント開催事業	担当課	久々野支所 基盤産業課	内線
	枝番				3531
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	○ A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	6 商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	2 観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1 観光振興費		D	その他事業
根拠計画		地域振興計画			
市長公約		1 積極的な観光振興策を実施します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。			

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,861 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	久々野地域住民が主体となって、地域のさらなる活性化・発展を図るイベントを開催し、高山市内外からの誘客を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	ひだ桃源郷くぐの観光協会が事務局、中心となって実行委員会を構成し、イベントを開催する。(ひだ桃源郷くぐのアマゴ釣り大会、ふるさとくぐの会四季のつどい、アルコピアひまわり園開園、ひだ桃源郷くぐの納涼夏まつり、ひだ桃源郷収穫劇場、アルコピアスノーカーニバル)		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・ひだ桃源郷くぐのアマゴ釣り大会 ・ふるさとくぐの会四季のつどい ・アルコピアひまわり園開園 ・ひだ桃源郷くぐの納涼夏まつり ・縄文フェスティバル ・ひだ桃源郷収穫劇場 ・アルコピアスノーカーニバル				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	イベント開催数	回	目標値	8	7	7
				実績値	8	7	-
	算出根拠等	イベント開催数	達成率(%)	100	100	-	
	活動指標	イベント総来場者数	人	目標値	20,000	21,000	22,000
				実績値	15,138	17,706	-
	算出根拠等	イベント来場者数	達成率(%)	76	84	-	
	算出根拠等			目標値			
				実績値			-
算出根拠等		達成率(%)			-		
算出根拠等			目標値				
			実績値			-	
算出根拠等		達成率(%)			-		
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	10,479	10,810	10,000	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
		一般財源		10,479	10,810	10,000	
	コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	112	116	108
受益者		市民(4月1日現在)	(B)	93,822	93,312	92,861	

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	久々野地域の特色を生かしたイベントであり、市民の期待も大きく、地域経済活性化に結び付く。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	地域振興特別予算が平成26年度までであるということから、段階的に自己負担率を増やし、地域で自主的に運営できるよう見直す必要がある。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	開催しているイベントの知名度もあがってきており、市外からの参加者も年々増加してきている。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	地域の活性化につながるイベントを再検討し、毎年行っていた「縄文フェスティバル」について、今年度から廃止した。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	久々野地域の特色を生かしたイベントで、地域住民が中心となって開催できた。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		9 / 10	→	100点換算	90 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	・地域振興特別予算が平成26年度までであるということから、段階的に自己負担率を増やし、地域で自主的に運営できるよう見直す必要がある。
--	--

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・地域主体の事業とすべく、負担金の段階的な引き下げを行う必要がある。 ・特例期間終了を見据え、地域への波及効果などの分析を行いつつ、行政の関与を段階的に縮小してい必要がある。
----------------------	--

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	久々野地域の活性化のためのイベントであるが、効果を検証し必要なイベントは自己負担率を増やし、自主運営できるようにする。
-----------------	---

次年度の実施方針(担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	久々野地域の活性化のためのイベントであるため継続が必要である。									

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大	○	縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・地域主体の事業とすべく、特例期間終了を見据え、負担金と行政の関与を段階的に縮小する必要がある。 ・各種効果について分析を行い、各イベントのあり方について検討する必要がある。									

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	95199	地域スポーツ振興事業費	担当課	久々野支所 地域振興課	内線
	95199				3511
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	○ A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	9 教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	5 保健体育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1 体育総務費		D	その他事業
根拠計画		地域振興計画			
市長公約		1 積極的な観光振興策を実施します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します			

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,861 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	ウィンタースポーツ振興による青少年育成、シニアスキーヤー復活・獲得、アルコピアスキー場の活性化		
概要	事業の実施手法(手段)	小中学生やシニアといった幅広い年齢層を対象にし、技術性の高いスキー大会を開催する。		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロモン杯第29回アルコピアジュニアスキー大会(1月29日)</li> <li>・HDAD杯第54回アルコピアアルペンスキー大会(2月19日)</li> <li>・第17回アルコピアスノーボードカップ(2月26日)</li> </ul>				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	大会開催数	回	目標値	3	3	3
		実績値			3	3	-
	算出根拠等	年間開催数		達成率(%)	100	100	-
	成果指標	大会総参加者数	人	目標値	500	450	450
		実績値			357	357	-
	算出根拠等	全大会の参加者数		達成率(%)	71	79	-
	算出根拠等			目標値			-
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
	算出根拠等			目標値			-
			実績値			-	
算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)(A)		800	800	800		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
		一般財源		800	800	800	
	コスト指標	受益者1件当たり(円)(A/B)		9	9	9	
受益者		全市民(B)	93,822	93,312	92,861		

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・市内だけでなく県内外からもニーズがあるが、全国的にスキー人口が減少している。	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・スキー場という観光資源を活用したスポーツ振興に効果があるが、地域の自主事業へ移行の見直しが必要である。	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・スキー場の入込数や大会参加者の増加がない。	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・大会運営の経費削減につとめ賞品代の見直しを行った。	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・スポーツ振興だけでなく誘客イベント的な大会として、地域の活性化に効果がある。	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		5 / 10	→	100点換算	50 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・大会参加者の拡大に向けた新たな展開を検討する必要がある。
---------------------------------------	-------------------------------

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の自主的な活動とすべく、負担金の段階的な引き下げを行う必要がある。</li> <li>・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。</li> </ul>
----------------------	--

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・アルコピアスキー大会実行委員会を開催し、参加者の増加に向けたPR方法について協議する。
-----------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H24完了予定
	・スポーツ振興だけでなく、スキー場の新たな集客戦略として利用し来場者と参加者の増加を図る。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	○ 縮小	廃止の検討	H24完了予定
	・特例期間終了を見据え、負担金、行政の関与を段階的に縮小する必要がある。 ・各種効果について分析を行い、他のスキー場との関連やスポーツ大会誘致のあり方について検討する必要がある。				

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	31399	地域老人福祉推進事業費 (老人クラブ活動費助成事業)	担当課	久々野支所 地域振興課		内線	
	3521						
予算	会計	1 一般会計	特別 予算 の 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	3 民生費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	1 社会福祉費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	3 老人福祉費		D	その他事業		
根拠計画							
市長公約		医療・福祉を充実させます 地域住民が互いに支えあう仕組みや、緊急時の支援を万全にするため、独居老人、要援護者等への地域福祉体制を整備します。					

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	60歳以上の市民で構成される単位老人クラブ及び連合組織	対象者数	10,000 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	明るい長寿社会と豊かな老後を目指す。		
概要	事業の実施手法(手段)	高齢者の生きがいと健康づくり、また高齢社会を支える上で大きな役割を担っている老人クラブに対し、福祉の向上のために事務局人件費を助成し、老人クラブを通じて、各種活動の育成、支援を行う。		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		市連合長寿会に対して、事務局人件費を助成。				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	連合長寿会会員数	人	目標値	10,500	10,500	10,000
		実績値		10,405	9,796	-	
	算出根拠等			達成率(%)	99	93	-
	活動指標	連合長寿会単位老人クラブ数	クラブ	目標値	150	150	143
		実績値		150	143	-	
	算出根拠等			達成率(%)	100	95	-
	活動指標	連合長寿会加入率	%	目標値	42.0	43.0	40.0
		実績値		41.7	39.3	-	
	算出根拠等		連合長寿会加入者数/65歳以上人口	達成率(%)	99	91	-
	活動指標			目標値			
		算出根拠等		実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
	成果指標			目標値			
算出根拠等			実績値			-	
算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	420	420	420	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)			163	162	280
		一般財源			257	258	140
	コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	454	465	462
受益者		久々野区会員(4月1日現在)	(B)	926	903	910	

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	高齢者が住み慣れた地域で、他の高齢者や住民と交流を持ちながら健康で日常生活を送るための活動として、市民の関心は高く、地域活動にも根付いている。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	市は、老人福祉法(第十条の三第一項)の規定により、老人クラブなどの老人福祉を増進する目的とする事業を行う者の活動の連携及び調整、地域の実情に応じた体制整備に努めなければならないため。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	老人クラブ加入者は、減少傾向であるため、役員等により、組織や活動の見直しに取り組んでいる。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	支所地域長寿会事務局の人件費補助として、最小限の経費である。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	長寿会活動に参加することにより、高齢者の健康増進と閉じこもり予防が図れた。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		8 / 10	→	100点換算	80 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	新規加入者が少なく、連合長寿会会員の減・単位クラブの減が課題となっている。健康で生きがいを持って生活するために、地域とのつながりも深めながら、今後一層の充実と活発な取り組みが必要である。
---------------------------------------	---

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	平成22年度事業評価において、老人クラブ(連合長寿会)の加入率は低下していることから、長寿会に加入しやすい体制の構築を促すなどの取組みが必要であるとの指摘をしているところであるが、連合長寿会に加盟しない地域もあり、事業効果が高齢者全体に及んでいないようになってきていることから、地域としての必要性も含め、今後のあり方について検討する必要がある。
----------------------	--

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・本補助金を有効に活用するため、老人クラブにおける活動内容の見直しを進めながら事業継続し、組織の育成と活動の支援を行う。
-----------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・老人クラブ活動費補助金(31336事業)との一本化を図る。									

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・市域全体としては、会員数・クラブ数は減少傾向にあり、事業効果が高齢者全体に及んでいないようになってきていることから、老人クラブ活動費補助金との一本化については、今後の支援のあり方も含めて検討する必要がある。									



# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	72199	市道未登記用地測量事業	担当課	久々野支所 基盤産業課		内線	
	枝番					3540	
予算	会計	1	一般会計	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	7	土木費	○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	2	道路橋りょう費	C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	1	道路橋りょう総務費	D	その他事業		
根拠計画							
市長公約	4	個人・家庭・地域を大切に作る社会を築きます ・市民が幸せな家庭生活を送り、安心して暮らせる地域を築くため、地域の自主的なコミュニティ活動や環境整備事業の予算枠を確保します。					

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,861 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	個人名義となっている市所有の道路用地について、分筆及び名義変更を行う		
概要	事業の実施手法(手段)	個人名義となっている市所有の道路用地を調査し、社団法人岐阜県公共嘱託登記土地家屋調査士協会へ登記業務を委託		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績	未登記となっている4路線の市道の一部について登記業務を委託し、26筆の所有権移転及び地目変更を行った					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	所有権移転登記完了筆数	筆	目標値	51	26	25
		実績値			51	26	-
	算出根拠等	分筆・所有権移転数/目標分筆・所有権移転	達成率(%)	100	100	-	
	成果指標	所有権移転登記完了筆数	筆	目標値	100	100	100
		実績値			100	100	-
	算出根拠等	分筆・所有権移転完了割合	達成率(%)	100	100	-	
	算出根拠等		目標値				
			実績値				-
	算出根拠等		達成率(%)				-
	算出根拠等		目標値				
			実績値				-
	算出根拠等		達成率(%)				-
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	4,774	4,584	5,000	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源		4,774	4,584	5,000		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	51	49	54	
	受益者	市民(4月1日現在)	(B)	93,608	93,212	92,861	

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	生活に身近な道路用地の確保は必要であり市民からのニーズは高い	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	人にやさしい道路など、生活に身近な市道の道路用地を確保することは、市として当然の義務であり実施する必要性は高い	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	現在の登記名義人の理解により達成率は高くなっている	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	1筆当たりの登記費用が高く、職員の人件費も加えると費用は大きくなっている。	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	総合計画に記載されている「すみよさ」のあるまちをめざすため、生活に身近な道路用地を確保する事は必要であり、市道用地の適正な管理を行う事は重要性が高い	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		7 / 10	→	100点換算	70 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)

個人名義となっている市所有の道路用地が非常に多い。また、現在の登記名義人の理解、相続に関する課題等が多いこと、各筆の境界確定のため道路用地名義人以外の関係者にも現地を立会って頂くことが必要であり、関係者全員の立会い協力について理解を得ることが難しい。

(参考) H23事業評価結果(二次評価)

H26までに重要路線の未登記処理を解消できるよう取り組んでいく必要がある

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況

委託業務を早期に発注し、委託期間を長期とし関係者に時間をかけ粘り強く説明し理解を得る。

次年度の 実施方針 (担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	個人名義の市所有の道路がまだ非常に多いため、継続する必要がある。									

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善	○	拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	平成26年度までに重要路線の未登記処理を完了できるよう積極的に取り組んでいく必要がある。									

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	94199	花いっぱい運動推進事業	担当課	久々野支所 地域振興課		内線
	枝番					3513
予算	会計	1	一般会計	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費	○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費	C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	社会教育総務費	D	その他事業	
根拠計画		地域振興計画				
市長公約		4	個人・家庭・地域を大切に作る社会を築きます。 ・市民が幸せな家庭生活を送り、安心して暮らせる地域を築くため、地域の自主的なコミュニティ活動や環境整備事業の予算枠を確保します。			

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,822 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・地域ぐるみで花いっぱい運動を実践し、美しいまちづくりを推進する。 ・花いっぱい運動を通じて、地域住民のふれあいと地域コミュニティの醸成を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・久々野地域全体へ花苗等を配布することにより、地域ぐるみでの花づくりを支援する。		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・久々野地域内の町内会へ花苗・肥料を配布 ・久々野地域内の公共施設へ花苗・肥料を配布				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	花苗数	株	目標値	16,446	16,176	16,000
		実績値		16,446	16,176	-	
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	活動指標	花づくり講習会	回	目標値	1	1	1
		実績値		1	1	-	
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	成果指標	地区花壇数	箇所	目標値	43	43	43
		実績値		43	43	-	
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	成果指標	公共施設数	箇所	目標値	7	7	7
		実績値		7	7	-	
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
				目標値			
			実績値			-	
算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項							
・花いっぱい運動は、地域に根付いており、町内会活動の一環となっている。							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	1,190	1,175	1,900	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源			1,190	1,175	1,900	
	コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	303	301	497	
	受益者	(B)	3,923	3,905	3,822		

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・花づくりを通じて、環境美化や住環境の向上につながるのと同時に、地域のつながりとコミュニケーションの場となるため、ニーズは高い。	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・市民憲章推進協議会が実施している花いっぱい運動との関係を検討する必要がある。	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・地域全体が一緒に取り組むことにより、地域への愛着や連帯感が高まっている。	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・低コストで花苗を希望どおりの数を配布できるように工夫している。	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・花づくりにより、地域を大切に作る社会づくりの実現に効果がある。	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		9 / 10	→	100点換算	90 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・同一事業の関連性の整理を行い、事業のあり方や一般予算への引き継ぎを検討する必要がある。
---------------------------------------	--

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・「花いっぱい運動」に対しては、当該地域振興予算のほか、一般予算による補助金(市民憲章推進事業補助金、特色ある地域活動事業補助金等)が直接・間接に助成されており、地域振興特別予算の終期も踏まえた助成のあり方を再検討するとともに、事業費規模などについて検討する必要がある。
----------------------	---

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・各町内会へ花いっぱい運動の協力依頼(18町内会・7公共施設) ・申込者に花苗の配付(花苗:14,694株(5種類)、種子:12dl(1種類)) ・統一に向けての本庁と支所との協議を実施していく。
-----------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	H24完了予定
	・事業を推進することで環境美化の向上や、地域住民がふれあう機会が創出され地域の絆や地域を大切に作る心などが芽生えることから継続する必要がある。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	H24完了予定
	・「花いっぱい運動」については、一般予算による補助金(市民憲章推進事業補助金、特色ある地区活動事業補助金等)との整理が必要である。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、助成のあり方・事業費規模などについて検討する必要がある。				

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	94699	久々野校区文化振興事業	担当課	久々野支所 地域振興課		内線	
	枝番					3513	
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	9 教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	4 社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	6 文化振興費		D	その他事業		
根拠計画		地域振興計画					
市長公約		9 伝統文化を守り、次世代へ継承します。 ◎芸術文化の振興を積極的に支えます。 ・心の中や生活に潤いと豊かさを醸し出し、生きがいや、若者の社会参加へのやる気づくりにもつながら芸術文化活動をさらに浸透させ、広げていくために芸術文化の保存と継承、新たな芸術文化の創出のための予算を総予算枠の1%以上を確保する。					

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,822 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・優れた芸術文化に触れる機会の充実と地域に根ざした芸術文化の振興を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・質の高い芸術文化の鑑賞など、地域が主体となって取り組めるよう支援する。 ・事業を継続的に実施し、地域住民への浸透を図り、文化活動の向上につなげる。		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		<ul style="list-style-type: none"> <li>・桃源郷寄席「春風亭昇太独演会」(10月5日)</li> <li>・新春ふれあいコンサート キム・ヨンジャ(1月18日)</li> <li>・文化展、芸能展(10月29日～11月3日)</li> <li>・ふなやま川柳大会(8月15日)</li> </ul>				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	事業実施回数	回	目標値	12	10	10
		実績値			11	11	-
	算出根拠等			達成率(%)	92	110	-
	活動指標	全事業の来場者数	人	目標値	7,000	7,900	5,350
		実績値			6,300	6,010	-
	算出根拠等			達成率(%)	90	76	-
	成果指標	全事業の来場者数	人	目標値	7,000	7,900	5,350
		実績値			6,300	6,010	-
算出根拠等			達成率(%)	90	76	-	
算出根拠等			達成率(%)			-	
算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項							
・生涯学習意欲の向上のために、あらゆる機会の提供と鑑賞による文化振興への意識が高まっている。							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	3,000	3,000	2,500	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源		3,000	3,000	2,500		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	765	768	654	
	受益者	久々野地域住民	(B)	3,923	3,905	3,822	

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)			
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・文化活動を地域住民に位置付ける機会となり、幅広いサークル活動や質の高い芸術文化に触れる機会となるので、ニーズが高い。			
		B (1)	ある程度のニーズがある					
		C (0)	ニーズが低い					
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	・生涯学習による豊かな心と活力のある地域を目指すためには、市の関与も必要である。 ・社教事業として、地域の自主事業への転換が必要である。			
		B (1)	一部見直しが必要である					
		C (0)	市が実施する必要性が低い					
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・地域住民の生涯学習活動のやる気の醸成という観点から、ある程度成果はある。			
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている					
		C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である					
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・自主財源の確保が図られてきている。			
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている					
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である					
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・生涯学習活動による、生きがいづくりや地域への参加活動による効果がある。			
		B (1)	ある程度効果があった					
		C (0)	あまり効果が見られなかった					
合計		7	/	10	→	100点換算	70	点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	・社教活動に対する地域住民の意識は高いので、自主財源の確保に向けた取り組みが必要である。
--	--

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般予算による文化芸術鑑賞事業の拡大により、H23より久々野公民館でも拡大実施しているため、実績や効果などを検証のうえ整理する必要がある。</li> <li>・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。</li> </ul>
----------------------	--

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・自主財源確保のため、チケット売上収入の増加が図られている。
-----------------	--------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・文化芸術活動は、地域の文化振興や芸術性を高め、住民の生きがいづくりや交流の場になっており継続する。									

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。</li> <li>・文化芸術鑑賞事業との関係の整理、実績や効果の検証を行う必要がある。</li> </ul>									



# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	95199	地域スポーツ振興事業	担当課	久々野支所 地域振興課	内線
	枝番				3513
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	9 教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	5 保健体育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1 体育総務費		D	その他事業
根拠計画	地域振興計画				
市長公約					

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地区住民	対象者数	3,822 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・いつでも、どこでも、だれでもが気軽にスポーツに親しめるようにする。		
概要	事業の実施手法(手段)	・ソフトボール大会、バレーボール大会、野球大会、スポーツフェスティバル、卓球大会、剣道大会、スキー大会		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>第39回町民ソフトボール大会(6月5日)</li> <li>第51回町民バレーボール大会(7月24日)</li> <li>町民対抗野球大会(8月17日)</li> <li>第42回町民卓球大会(11月20日)</li> <li>第43回町民スキー大会(3月4日)</li> <li>黒獅子旗野球大会(6月上旬)</li> <li>ソフトボールクラブ選手権(6月下旬)</li> <li>第7回スポーツフェスティル(10月2日)</li> <li>ふれあいソフトミニバレーボール大会</li> <li>町民剣道大会(3月18日)</li> </ul>					
	指標名	単位	目標・実績	H22	H23	H24	
	活動指標	スポーツイベント開催数	回	目標値	13	13	13
				実績値	10	10	-
		算出根拠等		達成率(%)	77	77	-
	活動指標	スポーツイベント参加者数	人	目標値	1,800	1,800	1,800
				実績値	1,664	2,104	-
		算出根拠等		達成率(%)	92	117	-
	成果指標	スポーツイベント参加者数	人	目標値	1,800	1,800	1,800
				実績値	1,664	2,104	-
	算出根拠等		達成率(%)	92	117	-	
			目標値				
			実績値			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	400	350	350	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
		一般財源			400	350	350
	コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	102	90	92
受益者		久々野地区住民	(B)	3,923	3,905	3,822	

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・地域のコミュニケーションとスポーツに親しむきっかけづくりとなっており、ニーズは高い。	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・スポーツを通じて活力のある地域づくりを目指すためには、市の関与も必要である。 ・社教事業として、地域の自主事業への転換が必要である。	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・地域住民のスポーツ活動でのやる気の醸成という観点から、ある程度成果はある。 ・子供から高齢者まで、多くの方に参加してもらえるよう工夫している。	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・自主事業として、財源確保に努めている。 ・補助事業による内容の精査が必要である。	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・久々野地域の住民の体力向上と病気をしない体づくりのためには効果がある。	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		7 / 10	→	100点換算	70 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・地域の自主事業としての事業展開と財源確保により、引き続きの事業実施が必要である。
---------------------------------------	---

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・地域の自主的な活動とすべく、負担金の段階的な引き下げを行う必要がある。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し縮小(廃止)を検討する必要がある。
----------------------	---

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・自主財源確保のため、参加費の徴収等による収入の増加が図られている。
-----------------	------------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・スポーツ大会を活発に実施することによって交流の場となっており、スポーツをするきっかけにもなっているため継続する。									

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大	○	縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・地域の自主的な活動とすべく、負担金の段階的な引き下げを行う必要がある。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。									

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	20999	地域おこし協力員活用事業	担当課	久々野支所 地域振興課		内線
	枝番					3513
予算	会計	1	一般会計		A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	2	総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	1	総務管理費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	9	企画費		D	その他事業
根拠計画		地域振興計画				
市長公約		合併のメリットを活かしつつ、それぞれの地域の特性を伸ばします。 ・地域の個性あるまちづくりと、地域の一体感を創るため、地域が手を取り合って取り組む活動を支援します。				

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地区住民	対象者数	3,822 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・「地域おこし協力員」と地域団体が協働して地域おこし活動に取り組むことにより、地域の活性化と地域力の維持・向上を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・農山村地域の活性化に対して意欲ある都市住民(若者等)を「地域おこし協力員」として委嘱する。 ・地域の受入団体と協働して、地域活動(体験メニュー支援、観光宣伝・誘客活動、特産品開発、イベント企画)に取り組む。		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・あららぎパークでの「わかさぎ釣り」の企画 ・道の駅でのパン・ドーナツの試作、販売				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	地域資源の活用や地域振興策の提案件数	件	目標値		2	2
				実績値		2	-
		算出根拠等	達成率(%)		100	-	
	成果指標	地域資源の活用や地域振興策の提案件数	件	目標値		2	2
				実績値		2	-
		算出根拠等	達成率(%)		100	-	
	成果指標	ワカサギ釣り人数	人	目標値		450	-
				実績値		450	-
		算出根拠等	達成率(%)		100	-	
	算出根拠等			目標値			-
				実績値			-
		算出根拠等	達成率(%)			-	
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)(A)		0	2,141	3,300		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
		一般財源			2,141	3,300	
コスト指標	受益者1件当たり(円)(A/B)			548	863		
	受益者	久々野地域の住民(B)		3,905	3,822		

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・「地域おこし協力員」の活動に興味を示している住民もあり、地域の盛り上がり期待している住民もいるので、ニーズはある。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・合併による地域の衰退は、市として取り組む重要課題であるので、市が積極的に関与する必要がある。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・地域団体との協働による地域おこしにより、地域に訪れる方策が生まれたことにより成果はあった。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・特別交付税の対応が図られているので問題はない。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・合併による地域の衰退を防ぐための手法として、市長公約にもある「地域が手を取り合って取り組む活動に支援します。」の活動に効果があった。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・「地域おこし協力員」の2年目で協力員が交代したことによる新たな活動が始まったので、新協力員の視点での地域おこし活動を久々野地域全体に広める必要がある。
---------------------------------------	--

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・事業開始初年度ということで、現状の調査や整理をしており、今後課題や改善、活性化に向けた事業を提案することにより、コストや効果を勘案して予算規模を検討する必要がある。
----------------------	---

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・地域おこし協力員の存在を町内に周知するため、町内の各種団体へ周知活動の実施。 ・Facebookによる久々野地域の情報発信の実施。 ・道の駅内の販売促進を図るための提案や体験メニューの実施を進める。
-----------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・久々野地域にある資源の活用を図り、地域活性化を推進するためには、地域おこし協力員活動は必要である。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・活動目標を明確化するとともに活動拠点以外の地域での交流などにより地域との連携を強化する必要がある。				



# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	20999	地域再発見事業	担当課	久々野支所 基盤産業課		内線
	枝番					3531
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2 総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 総務管理費		O	C 終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9 企画費		D	その他事業	
根拠計画		地域振興計画				
市長公約		1 積極的な観光振興策を実施します。 ・高山にふさわしい土産物開発、生産、パッケージ化、販売を支援します。				

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域の住民	対象者数	3,822 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	地域力向上のため、地域の魅力の再発見及び地域資源の発掘を行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	久々野地域の特産である果樹、野菜等地元素材やオリジナルな郷土料理を基にして、現代風にアレンジするなど多くのニーズに合わせる新たな特産品の開発を行い、久々野のブランド力の強化を図り普及や販路拡大を行う。また、県内外に広くPR活動を行い、安全で安心できる果樹ブランドの確立、食と果樹を通じた地域への誘客につながる取組みを実施。		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		<ul style="list-style-type: none"> <li>・果樹等PR事業(蒲郡まつり)</li> <li>・果樹等PR事業(マルシェジャポン)</li> <li>・第1・2回久々野ブランド化研修</li> </ul>				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	成果指標	オリジナル商品の開発件数	件	目標値		1	1
		実績値				1	-
	算出根拠等	開発件数		達成率(%)		100	-
				目標値			
	算出根拠等			実績値			-
				達成率(%)			-
	算出根拠等			目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
	算出根拠等			実績値			-
				達成率(%)			-
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)(A)		118	648	1,000		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源	118	648	1,000			
コスト指標	受益者1件当たり(円)(A/B)		30	166	262		
	受益者	久々野地域の住民(B)	3,923	3,905	3,822		

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)			
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	果樹や野菜は久々野地域の特色ある資源として地域住民の期待や注目度は高く、ブランド力の強化と高付加価値に対する要望は高い。			
		B (1)	ある程度のニーズがある					
		C (0)	ニーズが低い					
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	この事業で久々野地域の果樹・野菜関係者への提案や、PR方法を提供している。			
		B (1)	一部見直しが必要である					
		C (0)	市が実施する必要性が低い					
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	果樹野菜や加工品の各種イベントを通じてPR活動等により販売実績等成果があがってきている。			
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている					
		C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である					
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	限られた予算内で効果的な予算執行に取り組んでいる。			
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている					
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である					
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	総合計画では「果樹と野菜のブランド力の強化と高付加価値化により地場産業の振興を図る」と位置付けられ、久々野地域の特色ある資源を強化するとともに地域住民の合意形成を図りながら、地域活性化に資することの必要性は高い。			
		B (1)	ある程度効果があった					
		C (0)	あまり効果が見られなかった					
合計		8	/	10	→	100点換算	80	点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)

久々野産の果樹・野菜・加工品や久々野地域全体の認知度はまだ低くブランド化されているとはいいがたい。今後は、地域一体となりイメージの統一化を図り、地域ブランドを確立していき、売り上げや観光客誘致に結び付ける。

(参考) H23事業評価結果(二次評価)

成果の有効活用について検討する必要がある。

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況

久々野のブランド化へ向けて、地域一体となり統一イメージのロゴを確定させ、久々野地域の認知度や果樹野菜加工品の売り上げ増を図っていく。

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H24完了予定
	H25年度からは、地域主体となって事業を進めていく。					

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H24完了予定

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	31399	地域老人福祉推進事業費 (地域高齢者生活支援事業)	担当課	久々野支所 地域振興課		内線 3521
	枝番					
予算	会計	1	一般会計	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	3	民生費	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	社会福祉費	O	C 終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3	老人福祉費	D	その他事業	
根拠計画		地域振興計画				
市長公約		4 個人・家庭・地域を大切に作る社会を築きます ・市民が幸せな家庭生活を送り、安心して暮らせる地域を築くため、地域の自主的なコミュニティ活動や環境整備事業の予算枠を確保します。 ・地域住民が自らの地域を改善、振興する活動を支援するための地域振興特別予算を全市域に拡大し権限と予算の地域移譲を図ります。				

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野町大西地区住民	対象者数	231 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	地域の中で安心して生活できる高齢者福祉の増進 1. 地域高齢者の生活支援 2. 地域高齢者の生きがいがづくり 3. 地域住民のコミュニティ推進 4. 地域振興		
概要	事業の実施手法(手段)	高齢者を中心とする地元住民が活動の拠点として使用する施設(大西ふれあいセンター)の小規模改修等初期投資費用を助成する。		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		高齢者生活支援事業を行うための、久々野町大西地区の施設(大西ふれあいセンター)の改修、備品購入				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	開設日	日	目標値	78	156	156
				実績値	76	145	-
		算出根拠等	週3日×52週	達成率(%)	97	93	-
	成果指標	ふれあいマーケット延べ来場者数	人	目標値	2,320	4,000	4,000
				実績値	1,622	2,758	-
		算出根拠等		達成率(%)	70	69	-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等		達成率(%)				-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等		達成率(%)				-
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	1,285	841	500	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
		一般財源			1,285	841	500
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	5,140	3,490	2,165	
	受益者	大西地区住民(4/1現在)	(B)	250	241	231	

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)			
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	平成21年12月にJA大西営業所が閉鎖し、食料品や日用品を購入できる店舗がなくなり、地域では今後も買い物場所や気軽に寄り合える場所の継続提供を望んでいる。(特に高齢者)また、健康教室、こども体験教室の継続実施も望んでいる。			
		B (1)	ある程度のニーズがある					
		C (0)	ニーズが低い					
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	市の未使用施設を活用した高齢者の生活支援事業であり、市が事業主体であることは妥当。			
		B (1)	一部見直しが必要である					
		C (0)	市が実施する必要性が低い					
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	ふれあいマーケットの開設日は目標の9割を超え、来場者数は目標の約7割となっており、活動指標は概ね達成しているといえる。			
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている					
		C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である					
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	地域の創意工夫により補助対象事業費は必要最小限の費用にとどめている。			
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている					
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である					
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	食料品や日用品を購入できる店舗がない地域に、規模は小さいものの自ら品物を手に取り買物できる場所や、地域住民が気軽に寄り合える場所と交流事業等を提供しており、地域コミュニティの推進を支援している。			
		B (1)	ある程度効果があった					
		C (0)	あまり効果が見られなかった					
合計		8	/	10	→	100点換算	80	点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・大西ふれあいセンター活用による大西地域振興会の活動は、現在のところ地域住民の無償ボランティアにより進められている。今後継続的に活動するためには、運営費の確保が課題であり、大西ふれあいセンターへ人が集うことのできるソフト面での充実と事業をコーディネートする人材の育成と地域の諸団体との連携が求められる。
---------------------------------------	---

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・H25以降、自主運営で効果を出せるようにする必要がある。
----------------------	-------------------------------

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・補助金交付は平成22年度から平成24年度までの3年間で、今年度を以ってこの事業の補助金交付は終了する。 ・市の未使用施設を活用した高齢者の生活支援、生きがいがづくり、地域コミュニティの拠点として、整備費に対して支援する。ただし、整備に関しては、消防法に関すること等最小限必要な内容に留めた上で、施設の有効活用を図る。
-----------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H24完了予定
	平成25年度からは、大西地域振興会による自立した自主的、主体的な地域高齢者生活支援事業の実施を目指す。					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H24完了予定

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	41299	久々野地域健康づくり事業		担当課	久々野支所 地域振興課		内線	
	枝番						3521	
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	4	衛生費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	1	保健衛生費		○	C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	2	予防費		D	その他事業		
根拠計画		地域振興計画						
市長公約		5	住みやすい街を創ります 医療・福祉を充実させます ・障がい等を持つ人たちの生活を支え、助け合いながら全ての人が生きる喜びを感じる社会を創ります。 ・地域住民が互いに支えあう仕組みや、緊急時の支援を万全にするため、独居老人、要援護者等への地域福祉体制を整備します。					

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,822 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	久々野地域では、昭和58年久々野保健センター開設当初から多数の運動器具を設置しており、器具を利用した自主的な運動や機能訓練の活動により、地域住民の身体機能の維持・健康増進に寄与している。		
概要	事業の実施手法(手段)	修理不能により平成23年5月に撤去したランニングマシンは、最も利用度が高く、地域住民の度重なる要望もあることから、器具を更新し、地域住民の健康な身体づくりのための運動や機能訓練を支援するもの。		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績	該当なし					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	久々野保健センター機能回復訓練室延べ利用回数	回	目標値			290
				実績値	290	286	-
	算出根拠等	使用申請による利用実績	達成率(%)			-	
	活動指標	久々野保健センター機能回復訓練室延べ利用人数	人	目標値			2,680
				実績値	2,678	2,537	-
	算出根拠等	使用申請による利用実績	達成率(%)			-	
	算出根拠等			目標値			-
				実績値			-
	算出根拠等		達成率(%)			-	
	算出根拠等			目標値			-
				実績値			-
	算出根拠等		達成率(%)			-	
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	0	0	500	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源					500	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	0	0	131	
	受益者	4/1久々野地域人口(人)	(B)	3,923	3,905	3,822	

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	評価対象外	平成24年度新規事業のため
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	評価対象外	平成24年度新規事業のため
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外	平成24年度新規事業のため
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外	平成24年度新規事業のため
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	評価対象外	平成24年度新規事業のため
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		/	→	100点換算	評価対象外 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)

(参考) H23事業評価結果(二次評価)

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H24完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H24完了予定



# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	53199 地域生活道路環境保全事業(林道)	担当課	久々野支所 基盤産業課	内線	3531	
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	5	農林水産業費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	3	林業費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1	林業総務費		D	その他事業
根拠計画	地域振興計画					
市長公約	3 産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します。 ・農業生産額250億円を目指します。					

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,822 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	地域間を結ぶふると林道は地域住民の重要な道路となっており、交通安全上道路幅を確保するため除草作業を行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	(一社)高山市シルバー人材センターへ清掃草刈り業務を委託する。		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績	H24新規事業					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	成果指標	林道除草延長	m	目標値			25,157
		実績値				-	
	算出根拠等	実施済除草延長	達成率(%)			-	
	算出根拠等		目標値				-
			実績値				-
	算出根拠等		達成率(%)			-	
	算出根拠等		目標値				-
			実績値				-
算出根拠等		達成率(%)				-	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	0	0	1,000	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源					1,000	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)			262	
	受益者	久々野地域住民	(B)			3,822	

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外	H24新規事業	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	評価対象外	H24新規事業	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外	H24新規事業	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外	H24新規事業	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外	H24新規事業	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		/	→	100点換算	評価対象外 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)

(参考) H23事業評価結果(二次評価)

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況

次年度の 実施方針 (担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	各地域において草刈り作業を実施していたが高齢化などにより林道農道などを含めすべてを管理することができなくなっているため継続は必要である。				

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・地域の景観、環境を保全するため実施しているが、特例期間終了後は、全市的に実施路線を検討する必要がある。				

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	62199	舟山周辺活性化推進事業		担当課	久々野支所 基盤産業課		内線	3531
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	6	商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	2	観光費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	1	観光振興費		D	その他事業		
根拠計画		地域振興計画						
市長公約		1 積極的な観光振興策を実施します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。						

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,861 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	久々野地域の自然観光資源を活かし、舟山周辺の年間を通じた活動により交流人口の増大を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	舟山周辺施設を活用した登山ガイドブックの作成		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績	H24新規事業					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	成果指標	登山者数	人	目標値			150
		実績値				-	
	算出根拠等	登山者数	達成率(%)			-	
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等		達成率(%)			-	
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等		達成率(%)			-	
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等		達成率(%)			-	
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	0	0	1,000	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源				1,000		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)			11	
	受益者	市民(4月1日現在)	(B)			92,861	

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	評価対象外	H24新規事業
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	評価対象外	H24新規事業
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外	H24新規事業
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外	H24新規事業
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	評価対象外	H24新規事業
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		/	→	100点換算	評価対象外 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)

(参考) H23事業評価結果(二次評価)

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H24完了予定
	H24年度で作成したマップを基に舟山等の活性化を図る。					

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H24完了予定

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	62499	位山舟山自然公園環境整備事業	担当課	久々野支所 基盤産業課	内線
	枝番				3531
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	6 商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	2 観光費		○ C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	3 自然公園費		D	その他事業
根拠計画	地域振興計画				
市長公約	1	積極的な観光振興策を実施します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。			

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,822 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	位山、あららぎ湖、舟山を一体とする自然公園を地域資源が持つ本来の魅力を引き市民や観光客などが活用できるものとする。		
概要	事業の実施手法(手段)	・あららぎ湖位山間登山道整備 ・旧リフト降場撤去工事 ・花木園環境整備および避難小屋設置 など		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績	H24新規事業					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	成果指標	登山者数	人	目標値			150
		実績値				-	
	算出根拠等	登山者数	達成率(%)			-	
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等		達成率(%)			-	
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等		達成率(%)			-	
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等		達成率(%)			-	
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円) (A)		0	0	16,000		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源				16,000		
コスト指標	受益者1件当たり(円) (A/B)				4,186		
	受益者	久々野地域住民 (B)			3,822		

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外	H24新規事業	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	評価対象外	H24新規事業	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外	H24新規事業	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外	H24新規事業	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外	H24新規事業	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		/	→	100点換算	評価対象外 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)

(参考) H23事業評価結果(二次評価)

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況

次年度の 実施方針 (担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	今年度整備した遊歩道等を、多くの市民や観光客に利用していただくため事業の継続は必要である。									

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H24完了予定



# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	94799 地域資源活性化推進事業(堂之上遺跡)	担当課	久々野支所 地域振興課	内線	3511		
予算	会計	1	一般会計	特別 予算 の 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費		○	C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	7	文化財費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						
市長公約	9	伝統文化を守り、次代へ継承します ・美しいふるさとの伝統文化を守り次代に継承します					

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,822 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	堂之上遺跡を地域の財産として見直し、縄文文化の体験や復元住居の修繕に携わることにより、郷土を愛する心を醸成する。		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縄文フォーラムの開催</li> <li>・土器づくりや火おこしなどの体験学習</li> <li>・地域の住民や小中学生が手伝い復元住居の屋根葺き替えの実施</li> </ul>		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績						
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	体験教室参加人数	人	目標値			120
		実績値					-
	算出根拠等	参加人数/計画参加人数	達成率(%)			-	
	成果指標	フォーラム参加人数	人	目標値			300
		実績値					-
	算出根拠等	実行委員会参加人数/実行委員会構成人数	達成率(%)			-	
	算出根拠等		目標値				-
			実績値				-
算出根拠等		達成率(%)				-	
算出根拠等		目標値				-	
		実績値				-	
算出根拠等		達成率(%)				-	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額	
	歳出(千円)(A)			0	0	2,000	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源					2,000	
コスト指標	受益者1件当たり(円)(A/B)					523	
	受益者	久々野地域住民	(B)			3,822	

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外	H24新規事業	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	評価対象外	H24新規事業	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外	H24新規事業	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外	H24新規事業	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外	H24新規事業	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		/	→	100点換算	評価対象外 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)

(参考) H23事業評価結果(二次評価)

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況  
・堂之上遺跡公園の縄文時代竪穴式復元住居の茅葺屋根の葺き替え作業体験を行う。

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H24完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H24完了予定

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	21099	地域市民活動推進事業 (ふるさと交流事業)	担当課	久々野支所 地域振興課		内線
	枝番					3511
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2 総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 総務監理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	10 市民活動推進費		O	その他事業	
根拠計画		地域振興計画				
市長公約		「合併のメリットを生かしつつ、それぞれの地域の特性を伸ばします。」 ・地域の特性のあるまちづくりと、市域の一体感を創るため、地域が手を取り合って取り組む活動を支援します。				

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,822 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	三重県南伊勢町との市民相互の地域イベントや伝統芸能の披露など、交流事業を通して住民同士の世代を超えて交流を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・久々野地域における活性化イベント(ひだ桃源郷収穫劇場)への出店、南伊勢町の伝統芸演技披露、住民の受入。 ・南伊勢町の地域イベントにおける久々野特産品の販売や伝統芸能の披露派遣。		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・平成23年9月24日(土)の受入事業には南伊勢町から24人が来町され、歓迎交流会を開催。翌25日(日)「ひだ桃源郷収穫劇場2011」に海産物の販売等により久々野地域関係者及住民との交流を深めることができた。また、南伊勢町「ふれあい市」へ参加し飛騨地域の特産品のPRを行うとともに、イベント前日には行政、観光協会関係者等の歓迎交流会が開催され交流を深めた。				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	参加人員		目標値	25	25	25
		実績値			16	16	-
	成果指標	算出根拠等	参加人数/計画参加人数	達成率(%)	64	64	-
		実行委員会参加率		目標値	20	20	20
	算出根拠等	実績値			4	3	-
		算出根拠等	実行委員会参加人数/実行委員会構成人数	達成率(%)	20	15	-
	算出根拠等	目標値					
		実績値					-
算出根拠等	目標値						
	実績値					-	
算出根拠等	目標値						
	実績値					-	
算出根拠等	目標値						
	実績値					-	
算出根拠等	目標値						
	実績値					-	
算出根拠等	目標値						
	実績値					-	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	365	300	290	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源		365	300	290		
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	93	77	76		
	受益者	久々野地域住民	(B)	3,923	3,905	3,822	

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・参加者の小学校時代から続いている交流であり、伝統を引き継ぐとともに地域特産品のアンテナショップとしての効果もありニーズはある。	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・市民相互の伝統芸能や地域イベントを実施することで、住民同士が世代を超えて交流できる。	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・観光都市「飛騨高山」を南伊勢町全体にPRし、イベントや伝統芸能の披露を通じ交流の輪を広げることができた。	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・補助金の対象となる経費について精査を行い補助金額を決定した。1人当たりのコストを見直しながら実施しており概ね適正である。	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・住民相互の交流により地域が発展するとともに久々野地域特産品の普及と販売の向上に効果がある。	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		5 / 10	→	100点換算	50 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・観光都市「飛騨高山」及び地域ブランドPRには効果があったが、人的交流の部分を中心に検討するとともに参加人員を増やすことにより目的達成や費用効果を高める必要がある。
---------------------------------------	--

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・補助金に頼らず自主運営できるよう地域との検討が進められており、引き続き地域に根付いた交流が続けられるよう自立に向けた取り組みを進めることが重要である。 ・特例期間終了を見据えて、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。
----------------------	---

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・実行委員会が自主運営に移行できるよう、補助金に頼る運営でなく、受益者負担割合を決めるなど事業内容を精査し検討する。
-----------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・参加人員の増加を目指し人的交流の幅を広げ、久々野地域への集客宣伝に努める。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・引き続き地域に根付いた交流が続けられるよう、補助金に頼らず自主的運営に向けた取り組みを段階的に進めていく必要がある。 ・特例期間終了を見据えて、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。				

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	21099	交通安全普及啓発事業	担当課	久々野支所 地域振興課		内線	
	枝番					3513	
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	2 総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	1 総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	10 市民活動推進費		O	その他事業		
根拠計画		地域振興計画					
市長公約							

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,822 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	交通安全意識の向上を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	交通安全パレードの実施(久々野保育園児、交通安全協会員、久々野区長寿会、高山市交通安全推進員) ・セレモニーの実施(表彰等)		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・9月27日(火) 交通安全パレード、セレモニー				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	パレード参加者数	人	目標値	200	200	200
				実績値	194	195	-
	算出根拠等			達成率(%)	97	98	-
	活動指標	参加団体数	団体	目標値	6	6	6
				実績値	6	6	-
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	成果指標	会場来場者数	人	目標値	400	400	400
				実績値	310	320	-
	算出根拠等			達成率(%)	78	80	-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
			実績値			-	
算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円) (A)		76	70	80		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
		一般財源		76	70	80	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A/B)		19	18	21	
受益者		久々野地区住民 (B)	3,923	3,905	3,822		

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	定期的に住民にPRすることと保育園児、小中学校児童生徒の参加により、親の意識の醸成につながるためニーズはある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	地域の交通安全協会が主体となり、交通安全思想の普及啓発を図る必要がある。 ・国、県、市においても、交通安全の普及啓発の取り組みが必要であるので、事業実施の支援は必要である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	実施すること、参加することによる交通安全への意識の醸成が図られているので効果はある。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	啓発物品の消耗品的な支出のみであり、経費節減は図られている。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	交通安全パレードは、久々野地域だけでなく、市域全体へのPR効果はあるが、事業実施方法(実施主体、実施日、事業内容等)については、検討する必要がある。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	6 / 10	→	100点換算	60 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	・市域全体のバランスを含め、交通安全協会主体の取り組みを検討する必要がある。
--	--

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・全市的なバランスの中から、地域振興特別予算の終期も踏まえた事業のあり方の再検討や事業費規模などについて検討する必要がある。 ・特例期間終了後を見据え、市全体のバランスを考慮し縮小(廃止)を検討する必要がある。
----------------------	--

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	交通安全パレードの実施に向けた関係者による打合せ会議を実施
-----------------	-------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	久々野地域の交通安全啓発の一助となっており引き続き事業を継続する。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	特例期間終了後を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。				



# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	54199 地域生活道路環境保全事業(農道)	担当課	久々野支所 基盤産業課	内線	3531	
予算	会計	1	一般会計	特別予算 の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	5	農林水産業費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	4	農業土木費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1	農業土木総務費		O	その他事業
根拠計画	地域振興計画					
市長公約	3 産業の柱として農業・林業・畜産業を確立します。 ・農業生産額250億円を目指します。					

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,822 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	広域営農団地農道は、飛騨農林事務所より管理移管を受け、高山市が管理することになっており、交通安全上片側一車線の道路幅を確保しなければならないため除草作業を行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	(一社)高山市シルバー人材センターへ清掃草刈り業務を委託する。		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績	広域営農団地農道 大坊～有道間					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	成果指標	農道除草延長	m	目標値	11,473	11,473	11,473
				実績値	11,473	11,473	-
	算出根拠等	実施済除草延長	達成率(%)	100	100	-	
	算出根拠等			目標値			-
				実績値			-
	算出根拠等		達成率(%)			-	
	算出根拠等			目標値			-
				実績値			-
	算出根拠等		達成率(%)			-	
	算出根拠等			目標値			-
				実績値			-
	算出根拠等		達成率(%)			-	
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	393	439	500	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源		393	439	500		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	99	112	131	
	受益者	久々野地域住民	(B)	3,961	3,905	3,822	

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)			
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	道路の景観保全や交通事故防止のため、ニーズは非常に高い。			
		B (1)	ある程度のニーズがある					
		C (0)	ニーズが低い					
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	広域営農団地農道は、管理移管を受け高山市の管理となっている。			
		B (1)	一部見直しが必要である					
		C (0)	市が実施する必要性が低い					
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	毎年計画通り、目的を達成している。			
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている					
		C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である					
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	効率的に実施されている。			
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている					
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である					
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	安全で快適な農道環境を保ち、久々野地域の農業者の生活を支えることで農業生産額の向上につながる。			
		B (1)	ある程度効果があった					
		C (0)	あまり効果が見られなかった					
合計		10	/	10	→	100点換算	100	点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)

安全で快適な通行を確保するためには、道路の環境整備が必要不可欠であり今後も引き続き事業継続に努める必要がある。

(参考) H23事業評価結果(二次評価)

農道の草刈りについては、地域や営農者による自主的な維持管理を求めめる必要がある。

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況

各地域において草刈り作業を実施していたが高齢化などにより林道農道などを含めすべてを管理することができなくなっている。このため集落間を結ぶ幹線道路について実施したが、その他の集落内道路は、地域にお願いし実施した。

次年度の 実施方針 (担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	各地域において草刈り作業を実施していたが高齢化などにより林道農道などを含めすべてを管理することができなくなっているため継続は必要である。				

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・農道の草刈りについては、地域や営農者による自主的な維持管理を求めめる必要がある。 ・他の事業との関係の整理、助成のあり方などについて検討する必要がある。				

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	72299	地域生活道路環境保全事業(市道分)	担当課	久々野支所 基盤産業課		内線
	72299					3540
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7 土木費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2 道路橋りょう費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	2 道路橋りょう維持費		O	D その他事業	
根拠計画		地域振興計画				
市長公約		4 市民の生活と生命・財産を守ります				

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民	対象者数	3,822 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	市内の町内会と町内会を結ぶ市道について、地域住民に草刈をお願いしているが延長が長く地元町内会ではなかなか実施できない。また、景観保全や交通事故防止も含め草刈を実施する。		
概要	事業の実施手法(手段)	道路除草 市道平野線他5路線(L=13,340m A=32,000㎡) シルバー人材センターへ委託		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		委託延長13,340mを7月より11月までの5か月間、随時道路除草作業を実施				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	成果指標	道路除草延長	m	目標値	-	13,340	13,340
		実績値	-	13,340	-	-	-
	算出根拠等	1,323m+1,080m+1,560m+2,099.5m+2,005.6m+	達成率(%)	#VALUE!	100	-	-
			筆	目標値			
		実績値		-	-	-	-
	算出根拠等		達成率(%)				
				目標値			
		実績値		-	-	-	-
	算出根拠等		達成率(%)				
				目標値			
		実績値		-	-	-	-
	算出根拠等		達成率(%)				
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)(A)		0	512	1,000		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
		一般財源	-	512	1,000		
	コスト指標	受益者1件当たり(円)(A/B)	0	131	262		
受益者 市民(4月1日現在)(B)		33,923	3,905	3,822			

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	道路の景観保全や交通事故防止のため実施する事業のためニーズは非常に高い	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	市が管理する道路であり、生活道路の環境保全からも重要性は高い	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	生活に身近な道路環境を整備する事により、景観保全や交通事故防止が図られるため、当事業の必要性は高く有効である	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	生活道路環境や景観保全、交通安全という目的からコストは概ね適正である	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	道路の景観保全や交通事故防止に努めるため、生活に身近な道路環境を保全する事は大切であり、当事業の必要性は高い	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		10 / 10	→	100点換算	100 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)

安全で快適な通行を確保するためには、道路の環境整備が必要不可欠であり今後も引き続き事業継続に努める必要がある

(参考) H23事業評価結果(二次評価)

地域の景観、環境を保全するため実施しているが、合併特例期間終了後は、全市的に実施路線を検討する必要がある

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況

地域で行われてきた草刈作業が実施されない状況となってきたため、各町内会でも実施して頂く様依頼する

次年度の 実施方針 (担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	安全で快適な通行を確保するためには、道路の環境整備が必要不可欠であり今後も引き続き事業継続に努める必要がある				

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・地域の景観、環境を保全するため実施しているが、特例期間終了後は、全市的に実施路線を検討する必要がある。				

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	92299	地域小学校教育振興事業費 (三重県南伊勢町五ヶ所小学校交流促進事業)		担当課	久々野支所 地域振興課		内線 3511
	枝番						
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	小学校費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	2	教育振興費		O	その他事業	
根拠計画		地域振興計画					
市長公約							

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,822 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	山村地域と沿岸地域という両地域の特性を生かした交流活動を行い、各種体験を通して、友情を深め感謝の気持ちや満足感などを感じるにより、自覚をもち自ら学び考える力を育てる。		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏の交流は、五ヶ所小学校を訪れ、地引網による漁業体験やカッター、小型ヨットなどに乗り海上体験を行い沿岸地域の生活様式などを学ぶ。</li> <li>冬の交流はアルコビアスキー場において、そりやスキーなどの雪上体験や冬季の山村の生活様式を紹介し一緒に体験することで郷土を大切にすることを育む。</li> </ul>		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		夏の交流は南伊勢町でヨット体験、干物づくり、ミカン栽培やキャンプファイヤー等の体験。冬の久交流会ではアルコビアスキー場でスノーモービル体験や、スキーを教えたり、そり遊びを行い友情を深めた。沿道でお迎え看板を作成し出迎えるたり、地域団体の協力による雪上迷路体験など、学校だけでなく久々野町と南伊勢町の地域ぐるみの交流を行った。				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	参加人数	人	目標値	54	49	60
		実績値			54	49	-
	成果指標	算出根拠等	参加児童数/小学校5年生児童数	達成率(%)	100	100	-
		参加率	%	目標値	100	100	100
	算出根拠等	参加実績率/参加目標率	達成率(%)		100	100	-
		目標値					
	算出根拠等	実績値					-
		達成率(%)					-
算出根拠等	目標値						
	実績値					-	
算出根拠等	達成率(%)					-	
	目標値						
算出根拠等	実績値					-	
	達成率(%)					-	
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	700	620	700	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源		700	620	700		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	178	159	183	
	受益者	久々野地域住民	(B)	3,923	3,905	3,822	

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・5年生が主体となって企画を行いPTAが運営委員会を組織し補助し交流活動が実施されており、30年以上続いている事業である。その伝統を引き継ぎ後世に伝えたいという要望が多くある。	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・他地域の学校と交流することで生活環境の違いを実感できる貴重な体験ができ、久々野への愛着も深まるこの事業は地域、行政の支援が必要である。 ・市内全体の交流状況から実施方法の見直しの検討は必要である。	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・児童が自主的に交流計画を企画し、PTA交流活動を支援し参加もしている。6年間の学校生活の中で大きな意義を持つ事業となっている。	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・長年続いている交流事業として一部補助金を使用しているが、事業の整理、見直しを行い、自主運営に向けた検討を行っている。	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・他地域の学校と交流することで生活環境の違いを感じ仲間との連携や協調により友情を深め郷土愛を育む教育に結びついている。	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		8 / 10	→	100点換算	80 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・実行委員会では長年続いている五ヶ所小学校交流事業の継続を強く望んでおり、積立金等を行い自主運営ができる事業になるよう検討している。
---------------------------------------	--

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・特例期間終了を見据え、支全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。
----------------------	--

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・自主運営による事業に移行できるよう必要経費を受益者負担できるよう資金積立を始めている。
-----------------	--

次年度の 実施方針 (担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境の違う地域と交流することで、互いの生活様式を学習し自ら学び考える力をつけている。</li> <li>PTAと協働する事業で事業効果は地域住民に広がり地域をつなぐ絆づくりに有効であり継続する。</li> </ul>				

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	<ul style="list-style-type: none"> <li>特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。</li> </ul>				



# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	94699	ふるさと名人継承事業	担当課	久々野支所 地域振興課	内線
	技番				3513
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	9 教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	4 社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	6 文化振興費		O	その他事業
根拠計画		地域振興計画			
市長公約		9 伝統文化を守り、次世代へ継承します。 ◎芸術文化の振興を積極的に支えます。 ・心の中や生活に潤いと豊かさを醸し出し、生きがいや、若者の社会参加へのやる気づくりにつながる芸術文化活動をさらに浸透させ、広げていくために芸術文化の保存と継承、新たな芸術文化の創出のための予算を総予算枠の1%以上を確保する。			

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,822 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・「小屋名しょうけ」「有道しゃくし」の技術の普及と後継者の育成を行い、後世に引き継いでいく。		
概要	事業の実施手法(手段)	・講習会を実施する。(10回)		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・「小屋名しょうけ」:11月から3月までに10回の講習会を開催 ・「有道しゃくし」:11月から3月までに10回の講習会を開催				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	受講申込者数(小屋名しょうけ)	人	目標値	20	20	20
				実績値	15	24	-
	算出根拠等			達成率(%)	75	120	-
	活動指標	受講申込者数(有道しゃくし)	人	目標値	10	10	10
				実績値	7	7	-
	算出根拠等			達成率(%)	70	70	-
	活動指標	継続受講申込者数	人	目標値	15	15	15
				実績値	6	11	-
	算出根拠等			達成率(%)	40	73	-
	成果指標	新規受講申込者数	人	目標値	15	15	15
				実績値	16	20	-
	算出根拠等			達成率(%)	107	133	-
	成果指標	修了証交付者数(小屋名しょうけ)	人	目標値	15	15	15
実績値				13	14	-	
算出根拠等			達成率(%)	87	93	-	
成果指標	修了証交付者数(有道しゃくし)	人	目標値	8	8	8	
			実績値	5	5	-	
算出根拠等			達成率(%)	63	63	-	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	122	167	220	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源		122	167	220		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	31	43	58	
	受益者	久々野地区住民	(B)	3,923	3,905	3,822	

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・久々野地域以外の住民からの受講申込も多く、新規受講者も多いので、市民ニーズはある。	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・保存会の存在があるので、保存会としての継承活動を支援する方向性の見直しが必要である。 ・市としても、重要な伝承芸術であるので、後世へ引き継ぎ、技術を残すためには支援が必要である。	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・継続受講者をはじめ、新規受講者も多くあり、伝承芸術の継承には成果があがっている。	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・材料費などの必要最低限の経費で、多くの受講者を受け入れている。	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・伝統芸能を後世に引き継ぐという観点から、文化資源を活かした地域づくりにおいて効果がある。	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		7 / 10	→	100点換算	70 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・保存会の自主的な活動に向けた方向性が必要である。
---------------------------------------	---------------------------

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・価値について検証する必要がある。
----------------------	-------------------

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・技術伝承者を保存会に加入してもらうために、優秀な伝承者の掘り起こしと加入に向けた検討を保存会と協議している。
-----------------	---

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・地域の伝統技術伝承の視点から次世代に残し、先代の知恵や技術を受け継ぎ、郷土に愛着を持ち守っていくことは重要であるため継続する。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・価値について検証する必要がある。				

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	20999	地域振興事業補助金	担当課	久々野支所 地域振興課		内線	
	枝番					3511	
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	2 総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	1 総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	9 企画費		O	その他事業		
根拠計画							
市長公約		「合併のメリットを活かしつつ、それぞれの地域の特性を伸ばします」 ・地域の個性あるまちづくりと、地域の一体感を創るため、地域が手を取り合って取り組む活動に支援します。					

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,822 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・地域住民が自分たちの地域を、自分たちの手でより良くしていく活動に対し支援する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・地域の人材や労力を活用し、助言や経費などを支援することにより、生活環境などを整備する。		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・安全、安心、快適な住環境づくりに関する事業 20団体 ・特色ある地域づくり、地域活性化に関する事業 11団体				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	申請数	件	目標値	45	40	40
		実績値		39	31	-	
	算出根拠等	申請数	達成率(%)	87	78	-	
		補助件数	件	目標値	45	40	40
	実績値	39		31	-		
	算出根拠等	補助実績数	達成率(%)	87	78	-	
		補助金交付率	%	目標値	95.0	95.0	95.0
	実績値	86.0		87.8	-		
	算出根拠等	予算執行額/予算額	達成率(%)	91	92	-	
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等		達成率(%)				-
				目標値			
			実績値			-	
算出根拠等		達成率(%)				-	
	補足事項						
・申請団体の活動に対する参加者も増え、住環境整備だけでなく地域振興的な事業にも取り組んでいる。							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	6,031	6,147	7,500	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源			6,031	6,147	7,500	
	コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	1,537	1,574	1,962
受益者 久々野地域住民		(B)	3,923	3,905	3,822		

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)			
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・地域住民が所属自治体などを中心に活動し、地域の住環境整備やコミュニティ意識強化の一環になっているため、住民からの強いニーズがある。			
		B (1)	ある程度のニーズがある					
		C (0)	ニーズが低い					
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	・市民が安心して暮らせる地域を築くため、地域の自主的なコミュニティ活動や環境整備事業を支援することは、地域社会を育成するために必要である。			
		B (1)	一部見直しが必要である					
		C (0)	市が実施する必要性が低い					
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・申請団体の活動に対する参加者も増えてきており、住環境整備のみならず地域振興的な内容も見られるようになっている。			
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている					
		C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である					
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・計画に対し、支所から申請者に助言し内容精査を行っている。住民が自ら事業内容を検討しコストが適正か確認している。			
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている					
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である					
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・地域住民が自主的に住みやすい環境づくりに貢献することは、地域社会の育成に効果がある。			
		B (1)	ある程度効果があった					
		C (0)	あまり効果が見られなかった					
合計		7	/	10	→	100点換算	70	点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	・市民が安心して暮らせる地域を築くため、地域の自主的なコミュニティ活動や環境整備事業を支援することは、地域社会を育成するために必要である。
--	---

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・平成26年を終期としている事業であり、執行内容を精査し、27年度以降の対応について検討する必要がある。
----------------------	--

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・「安全、安心、快適な住環境づくりに関する事業」については14団体が実施中、また、「特色ある地域づくり、地域活性化に関する事業」については9団体が実施中である。
-----------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・市民が安心して暮らせる地域を守るため引き続き、「安全、安心、快適な住環境づくりに関する事業」及び、「特色ある地域づくり、地域活性化に関する事業」を継続する。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、平成27年度以降の対応について検討する必要がある。				

# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	20999	地域要望対応事業	担当課	久々野支所 地域振興課		内線	
	枝番					3511	
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	2 総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	1 総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	9 企画費		O	その他事業		
根拠計画							
市長公約		合併のメリットを生かしつつ、それぞれの地域の個性を伸ばします。					

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,822 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	地域の要望に対して早急に対応を行い地域の環境整備を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	地域の要望により市道や農道、水路等の軽微な修繕を実施。		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・市道修繕(7件)、河川整備(3件)、公共施設修繕(6件)、林道崩土除去(1件)、排水路修繕(2件)、防火水槽修繕(1件)				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	要望事項受付数	件	目標値	20	20	20
		実績値			21	20	-
	算出根拠等	要望事項受付数/要望事項受付目標数	達成率(%)		105	100	-
	成果指標	要望事項実施率	件	目標値	20	20	20
		実績値			21	20	-
	算出根拠等	実施数/要望事項実施目標数	達成率(%)		105	100	-
				目標値			
				実績値			-
算出根拠等			達成率(%)			-	
			目標値				
			実績値			-	
算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項							
・地域住民からの要望を精査し関係課と協議し予算執行できるよう調整している。							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)(A)		9,665	11,481	8,500		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源	9,665	11,481	8,500			
コスト指標	受益者1件当たり(円)(A/B)		2,464	2,940	2,224		
	受益者	久々野区地域住民(B)	3,923	3,905	3,822		

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・地域から提出される事業要望は、昨年度と同様な事業量である。	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・地域の要望により市道や水路等の公共施設の修繕が実施されることは、施設の延命化につながる。	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・要望の件数は多く、精査を行って実施しており、地域からの要望はおおむね達成している。	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・要望事項については、地域内で検討し地域内で対応できる事業と市が実施する事業に分けるよう検討をしている。	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・地域からの要望があつた軽微な修繕工事を早期に対応しており、地域の環境整備に効果がある。	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		8 / 10	→	100点換算	80 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・市道や施設等を良好な状態に保ち、市民が安心して安全に暮らせる地域を築くために継続する必要がある。
---------------------------------------	---

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、27年度以降の対応について検討する必要がある。
----------------------	---

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・町内からの要望書をとりとめ、現地調査により実施箇所を検討した上で事業実施している。
-----------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・市道や施設等を良好な状態に保ち、市民が安心して安全に暮らせる地域を築くために継続する必要がある。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、平成27年度以降の対応について検討する必要がある。				



# 平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	土地借り上げ料		担当課	久々野支所 基盤産業課		内線	3531
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款			○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目			D	その他事業		
根拠計画							
市長公約							

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域の住民	対象者数	3,822 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	久々野地域の公共施設維持のための土地の借り上げ		
概要	事業の実施手法(手段)	久々野地域の公共施設を維持運営するため、旧久々野町時代から民間から借り上げている土地の中で高山市の借り上げ基準を上回る物件についての借上げ		

## 2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルコピアスキー場土地</li> <li>・駅駐輪場</li> <li>・堂之上遺跡</li> <li>・久々野診療所及び久々野東部診療所</li> </ul>					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	成果指標	高山市土地借り上げ基準達成件数	件	目標値	5	5	5
		算出根拠等		実績値	0	0	-
				達成率(%)	0	0	-
				目標値			
				実績値			-
				達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
			達成率(%)			-	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)(A)		5,913	5,295	5,299		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
		一般財源	5,913	5,295	5,299		
コスト指標	受益者1件当たり(円)(A/B)		1,507	1,356	1,386		
	受益者	久々野地域住民(B)	3,923	3,905	3,822		

## 3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	公共施設として地域住民が利用しており、維持運営するための土地借り上げは必要である。	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	公共施設として地域住民が利用しており、維持運営するための土地借り上げは必要である。	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	地権者と条件や期間などについて粘り強く交渉し、高山市の基準に近づくよう交渉し、達成には近づきつつある。	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	地権者と条件や期間などについて粘り強く交渉し、高山市の基準に近づくよう交渉している。	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	総合計画に基づく市民のための施設を維持運営するためには必要であり、効果はあった。	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		8 / 10	→	100点換算	80 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	地権者と条件や期間などについて粘り強く交渉し、高山市の基準に近づくよう交渉していく。
---------------------------------------	--

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	市の基準に近づくよう単価交渉を継続する必要がある。
----------------------	---------------------------

## 4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	地権者と条件や期間などについて粘り強く交渉し、高山市の基準に近づくよう交渉していく。
-----------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H24完了予定
	公共施設として地域住民が利用しており、維持運営するための土地借り上げは必要である。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	○ 縮小	廃止の検討	H24完了予定
	市の基準に近づくよう単価交渉を継続する必要がある。				